



ニュースレター

第60号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F
株式会社ワールドプランニング内
NPO法人日本リハビリテーション看護学会
事務センター
電話番号 03(5206)7431 FAX 03(5206)7757
E-mail jrna@worldpl.jp



＜軽井沢万台ホテルにて＞



＜五台山の梅花黄蓮＞



ご挨拶にかえて

日本リハビリテーション

看護学会の内外団体との連携の現状

理事長 粟生田 友子

埼玉医科大学 保健医療学部

新たな日本リハビリテーション看護学会の活動に向けて

新年度に入り、ますます学術大会の現地開催のスタイルを取り戻していく期待が高まってきております。2025年11月には、金沢での学術大会が開催される見込みです。昨年元日の地震と秋の豪雨災害からの復興へのエールを込めて、北陸の地で皆様とお会いできることを心待ちにしております。

この稿では、学会の外部団体との連携強化がますます進められてきていますので、いくつかこの活動に触れ、学会活動の内外での連携の現状をご紹介します。

学会の外部組織との連携や参画が進んでいるのは、まず看保連（看護系学会社会保険連合）が上がります。看保連は、看護の診療報酬や介護報酬体系の適正化を促進することを目的とし、現在58団体が加盟しており診療報酬の要望を厚生労働省に提出しています。この団体では、診療報酬体系のあり方に関する検討委員会委員長として本学会理事が担い、各委員会に担当理事が参加し、令和8年度診療報酬改定に向けて、診療報酬改定要望等を所属する看護系団体と協議し、まとめているところです。さらに、本学会も加盟するリハビリテーション医療・介護に関連する9団体で構成される全国リハビリテーション医療関連団体協議会にも理事が参画し、合同での要望案をまとめて提出しています。

また、リハビリテーション関連団体としては、日本リハビリテーション病院・施設協会があります。この協会は、約40人の理事と監事があり、理事は病院・施設の代表ですが、本学会は、PT協会、OT協会、ST協会（略称）等と並んで、外部理事として参与し、理事長が代表で

名を連ね、情報交換を行っています。各委員会活動では、広報委員会にも副理事長がメンバーとして活動しています。

昨年この団体が企画するリハビリテーション・ケア合同研究大会にはじめて本学会も手上げをし、看護職向けのシンポジウムを開催しました。続けて企画していきますので学会の学術大会だけでなく、是非ご参加ください。

リハビリテーション関連団体としても一つ、回復期リハビリテーション病棟協会とは、コロナ禍から開けて合同研修会も再開しました。毎年年末に企画していますので、是非参加を期待しています。

さらに、看護介護関連分野においては、近接する学術分野の学会との連携が上がりますが、認定看護師分野で脳卒中リハビリテーション看護の認定看護師を立ち上げ承認を受けていったのも関連分野との共同する形で実現したものです。

まだまだありますが、最後に、内部の活動で今年目標としているものの中には、リハビリテーション看護におけるクリニカルラダーの【実践編】を策定していくことを上げています。本学会が策定したラダー案を、実践に即してもっともっとリハ看護を担う場に活用できる形で提供していけることを目指しています。さらに、診療報酬改定に向けた調査も実施し、先に述べた外部関連団体と検討を進めて診療報酬要望案に組み入れ、提案していくことも続けてまいります。

今後とも新規の活動とともに継続している活動にも是非ご注目ください。会員の皆様のリハビリテーション看護分野での活発な活動を期待しています。学会はそのニーズに応えてまいりたいと思います。



副理事長就任のご挨拶

医療法人溪仁会法人本部 森河 琴美

2024年度通常総会終了後、役員選挙にて選出され、この度、副理事長を拝命いたしました。学術的な教育フィールドでの経験はございませんが、急性期・慢性期・回復期リハ病棟での経験を活かし、本会の発展に尽力して参りたいと存じます。

さて、コロナ禍以降、看護師の職能団体や各種学会へ入会する看護師の数が減少傾向にあることをご存知でしょうか。入会は所属する施設や先輩からの指示や促しではなく本人の意思で選択できる施設等が増えたためと言われています。一方で“メリットを感じられない”と、どこの団体にも所属していない看護師が増えていることは問題と感じています。看護師は自律性が求められる専門職です。自分自身の職能を磨き社会的な価値を高めていかなければなりません。メリットの有無ではなく、自らが発信する者となるために職能団体や各種学会を活用することが重要と考えます。本学会が皆さまに選ばれる魅力的な学会であるよう、皆さまのご意見に耳を傾け、リハビリテーション看護の進展のため、皆さまと共に学会の価値を高めていきたいと思っております。今後ともよろしくご挨拶致します。

第36回 学術大会終了報告

大会長
東邦大学看護学部教授 原 三紀子



2024年11月2日、3日の両日、第36回学術大会「ナラティブから始めるリハビリテーション看護～心とからだの声を聴く～」をオンラインにて開催いたしました。両日のLIVE配信に加え、2025年1月31日（金）までオンデマンド配信を実施し、延べ2,512件の視聴がありました。多数のご視聴ありがとうございました。

本大会では、一般演題26題に加え、講演、シンポジウム等、計32演題を3チャンネルにて展開いたしました。「ナラティブ」をキーワードに、当事者の方々、ご家族、看護師、医師、理学療法士、作業療法士、心理療法士など、様々な立場からのご講演を賜り、リハビリテーション看護への力強いエールを頂戴いたしました。また、一般演題では多岐にわたる実践知のご発表をいただきました。

オンライン開催となったため、対面による交流は叶いませんでしたが、多くの参加者の方々から「心に響く、看護に向き合う学術大会であった」とのご感想をいただきました。本大会から発信された様々なメッセージは、今後のリハビリテーション看護の発展に大きく貢献するものと確信しております。





第37回日本リハビリテーション看護学会学術大会のご案内

大会長
金沢大学医薬保健研究域保健学系 加藤真由美

今回のメインテーマは、「Go for it! リハビリテーション看護は果敢に挑戦する」です。リハ看護師のプロフェッショナルリズムは、全ての過程で一貫して、専門的に生きる意味や自己存在の尊さを当事者が再発見できる支援や、自立に向かい生活の質が保たれる支援を多職種連携の実践やマネジメントすることです。私たちが向き合っている方々は、生きることそのものが影響を受けているため、時にはどのように看護を行ったら望ましいのか迷うことがあります。そのため、参加者の皆様が様々な専門家や成功体験をもつ看護師の方々と情報共有し、自身のプロフェッショナルリズムをあらためて認識し、発展させたことを現場に持ち帰っていただきたいと願っています。

利川県で皆様をお待ちしています!!

Go for it!

リハビリテーション看護は果敢に挑戦する

NPO 法人
日本リハビリテーション看護学会
第37回学術大会

2025年
11月1日(土) ~ 2日(日)

会場
石川県地場産業振興センター本館
(石川県金沢市鞍月2丁目1番地)

大会長
加藤 真由美
(金沢大学医薬保健研究域保健学系)

参加登録	前期登録	後期登録
正会員	10,000円	12,000円
個人 准会員	12,000円	12,000円
学生	2,000円 (消費税別)	

5年ぶりの対面開催です!

【大会事務局】
金沢大学保健学系 老年リハ看護学分野内 担当: 正瀬 幸
〒920-0942 石川県金沢市小立野 5-11-60

【運営事務局】
株式会社アイ・シー・エス 〒920-0919 石川県金沢市南町 2-1
TEL: 076-224-4141 FAX: 076-262-2618 E-mail: jnna37@ics-inc.jp



第 31 回学術大会時の大会長講演



金沢駅鼓門



兼六園



2024年度 通常総会

2023年度 活動計算書

2023年10月1日～2024年9月30日

特定非営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会
(単位:円)

科 目	金 額	小計・合計
[A] 経常収益		
1 受取会費		9,279,000
正会員受取会費	9,279,000	
2 事業収益		5,851,296
調査・研究・学術大会開催事業収益	5,182,602	
研究会・講演会開催事業収益	668,694	
3 その他の収益		23,925
受取利息	582	
学会誌売上	15,909	
雑収入	7,434	
経常収益計		15,154,221
[B] 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		7,510,733
学術大会運営費	4,404,531	
学会誌編集・発行費	1,761,608	
ニューズレター発行費	305,800	
研修会費	567,075	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
・学会誌編集委員会	31,144	
・研修委員会	41,650	
・広報・会員拡大委員会	0	
・調査委員会	0	
・教育プロジェクト	0	
表彰費	31,925	
選挙管理・運営費	0	
看護系学会等社会保険連合会費	150,000	
雑費	217,000	
事業費計		7,510,733
2 管理費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) その他事務局管理費		6,308,078
会議費	101,734	
旅費交通費	330,236	
印刷・通信費	523,288	
HP・メールマガジン管理費	660,000	
オンデマンド配信サイト管理費	264,000	
業務委託費	4,415,400	
租税公課	0	
雑費	13,420	
管理費計		6,308,078
経常費用計		13,818,811
当期経常増減額【A】-【B】……………①		1,335,410
[C] 経常外収益		
経常外収益計		0
[D] 経常外費用		
経常外費用計		0
当期経常外増減額【C】-【D】……………②		0
税引前当期正味財産増減額①+②……………③		1,335,410
法人税、住民税及び事業税……………④		0
前期繰越正味財産額……………⑤		10,080,962
次期繰越正味財産額③-④+⑤		11,416,372

2024年度 活動予算書

2024年10月1日～2025年9月30日

特定非営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会
(単位:円)

科 目	金 額	小計・合計
[A] 経常収益		
1 受取会費		9,280,000
正会員受取会費	9,280,000	
2 事業収益		8,010,000
調査・研究・学術大会開催事業収益	7,340,000	
研究会・講演会開催事業収益	670,000	
3 その他の収益		31,000
受取利息	1,000	
学会誌売上	20,000	
雑収入	10,000	
経常収益計		17,321,000
[B] 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		10,780,000
学術大会運営費	7,340,000	
学会誌編集・発行費	1,760,000	
ニューズレター発行費	310,000	
研修会費	570,000	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
・学会誌編集委員会	50,000	
・研修委員会	50,000	
・広報・会員拡大委員会	50,000	
・調査委員会	50,000	
・将来構想プロジェクト	50,000	
表彰費	30,000	
選挙管理・運営費	150,000	
看護系学会等社会保険連合会費	150,000	
リハビリテーション・ケア合同研究大会助成金	200,000	
雑費	20,000	
事業費計		10,780,000
2 管理費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) その他経費		6,300,000
会議費	100,000	
旅費交通費	330,000	
印刷・通信費	520,000	
HP・メールマガジン管理費	660,000	
オンデマンド配信サイト管理費	260,000	
業務委託費	4,420,000	
租税公課	0	
雑費	10,000	
管理費計		6,300,000
経常費用計		17,080,000
当期経常増減額【A】-【B】……………①		241,000
[C] 経常外収益		
経常外収益計		0
[D] 経常外費用		
経常外費用計		0
当期経常外増減額【C】-【D】……………②		0
税引前当期正味財産増減額①+②……………③		241,000
法人税、住民税及び事業税……………④		0
前期繰越正味財産額……………⑤		11,416,372
次期繰越正味財産額③-④+⑤		11,657,372



リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024

主催団体シンポジウム実施報告

テーマ「栄養から整えるリハ看護～スモールステップ～」

白山リハビリテーション病院 板倉 喜子

今回から本学会が主催団体に参入し、はじめてのシンポジウムを開催しました。地域でよりよく暮らすために必要な「栄養に関わるリハ看護の実践」にフォーカスし、急性期看護と在宅看護に携わる看護師各2名をシンポジストに迎えました。

急性期では覚醒をはじめ症状が変動するなか、食べられる「能力」「タイミング」に気づく力、安全なりハ看護の実践には知識・技術の向上は不可欠であり、患者の全体像から食事にアプローチする看護師の役割が伝えられました。

また、在宅では、患者や家族の「食べたい」を支えるには、栄養確保の方法やリスクの丁寧な説明と当事者の協力が必須であること、かつ「食べられない」「活動量の低下」とリハビリを依頼する高齢者のほとんどに低栄養があり、看護師が脱水への介入と栄養状態の評価、栄養管理したうえでリハビリを行うことが健康寿命への延伸につながると示唆されました。会場との質疑応答もあり有意義な学び合いができました。



委員会活動報告（研修委員会）



大阪府済生会大阪北リハビリテーション病院 遠藤 瑞穂

前年度研修委員会ではリハビリテーション看護クリニカルラダー【ケアする力】の『回復促進の援助』に該当する研修として、「排泄自立への援助」「転倒・転落の予防」の2回の研修会を開催しました。

今年度は、2回の研修会と、回復期リハビリテーション病棟協会との合同研修会の開催、リハケア合同研究大会でのシンポジウム等を予定しております。

7月クリニカルラダー研修 【ニーズをとらえる力】からの【ケアする力】

テーマ：認知機能が低下した患者の援助（高次脳機能障害、認知症、せん妄）

場 所：大阪北リハビリテーション病院

9月クリニカルラダー研修 【意思決定を支える力】を【協働する力】とともに

テーマ：退院後の生活支援

場 所：上智大学四谷キャンパス

※受講後修了書発行

超高齢化社会の中、医療の現場では、看護に求められる役割は著しく増加しており、日々の看護実践の中で、葛藤や戸惑い、ジレンマを抱くことも少なくありません。

同じリハビリテーション看護を行う仲間と共に、学び、日頃の思いを語る機会になればと企画しました。多くの皆様の参加をお待ちしております。



施設紹介

社会医療法人近森会近森リハビリテーション病院

回復期リハ看護認定看護師
近森リハビリテーション病院シニア看護師長 岡部 美枝



当院は、高齢化率が全国で2番目に高い高知県のほぼ中心に位置し、回復期リハビリテーション病棟180床を有しています。1989年「どのような障害があっても、患者さんが住み慣れたところでその人らしく安心して生活できるように適切なリハビリテーション医療を提供する」という理念のもとに開設されました。2000年には回復期リハビリテーション病棟の認可を受け、2015年には新しい時代に対応するために新築移転し、ロボットリハビリテーションをはじめとする先進リハビリテーション医療を行う環境も整えました。

看護部は、「患者さんが安心して地域で生活できるように、急性期から在宅へとつなげる看護を提供する」という理念を掲げ、基本的ケア10項目を基準としてケアの提供を行っています。開院当初より継続して、食事や排泄など日常生活の基本となる活動を支え、患者さんやご家族、患者さんを支える方々のその人らしい生活の再構築に向かえるよう、セルフケアを支援してきました。そのためには、多職種で協働することは不可欠です。近森会グループのクリニカルリーダー研修と回復期リハ看護師教育研修の看護部教育だけでなく、ノーリフト研修など多職種で共に学び合う環境やシステムでスタッフ教育を実施しています。また、スタッフたちが安心して安全に効率的に働く環境作りを支援するために、医療 DX の普及にも務め、HR ジョイントや眠りスキャン、ロボット浴槽、インカムなどの導入を進めています。

今後も少子高齢化が進む社会で、患者さんや家族が抱える課題は多様化してきます。その中で、少しでも患者さん・家族が笑顔でその人らしい生活を送ることができるよう、急性期病院から生活期までつなげる回復期リハ看護を実践していきたいと思えます。

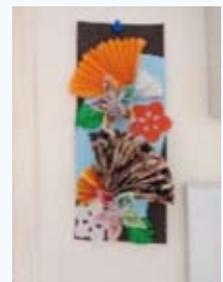
編集後記

2025年は日本の人口の5人にひとりが75歳以上の後期高齢者となる超高齢化社会と言われてきた年でもあります。私が勤務する病院でも高齢化率が上がり介護度も増していく中、回復期リハビリテーション病棟では患者様やご家族の方に少しでも笑顔になって回復できるようにと看護補助の方々が手作りで作成した花紙や色紙の作品を紹介します！入院患者さんはもちろん病棟に来るスタッフ達も感心しながら喜んでくれます。

医療法人友愛会 盛岡友愛病院
外館和佳子



スタッフステーション
前の花紙



病室前の折り紙